



大峯鉱山 (八幡浜市)

例がありません。

興味深いのは、この大峯鉱山の坑道です。壁にあるこの小さなアーチ空間をどのように利用したのかは分かりませんが、この坑道は、カラミ煉瓦で壁を造り、天井部のアーチは煉瓦でつくられているめずらしい構造物です。カラミ煉瓦を使った興味深い施設だと思います。明治時代につくられたものです。

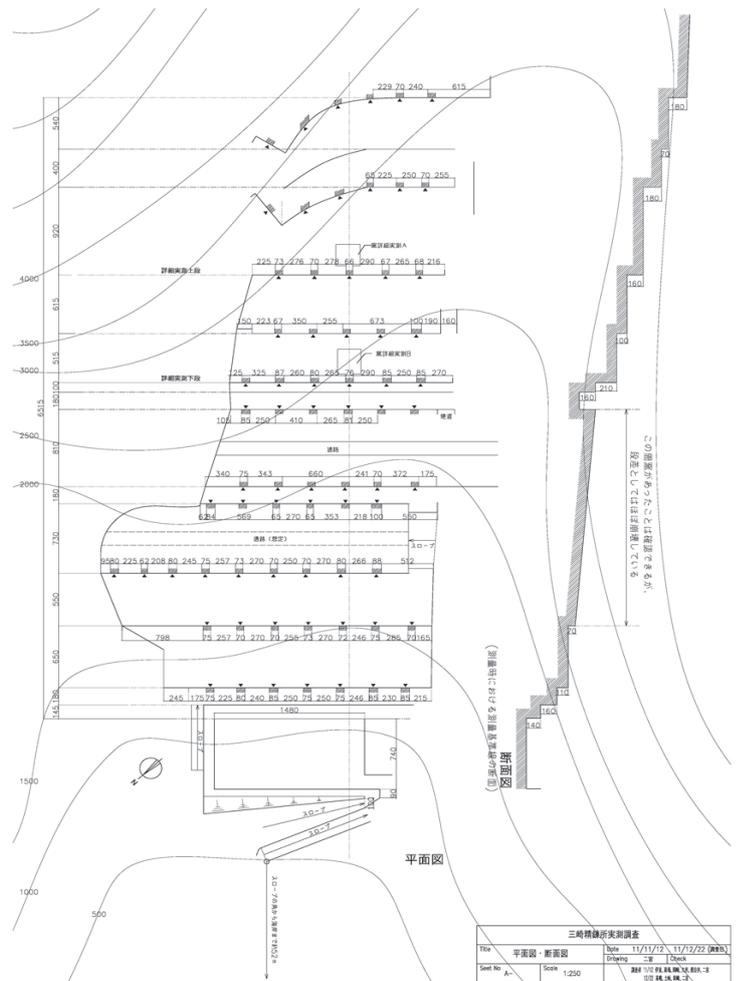


三崎製錬所 (伊方町)

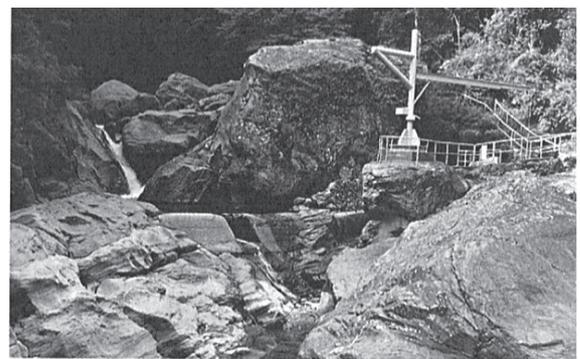
これも佐田岬半島にあります。銅の精錬施設跡です。写真ではこのような形でしかお見せできないのですが、上のほうから傾斜地を利用しながら段々下へ下がりながら精錬していきます。図面を起こして、全体像を明らかにしたということでは、今回の貴重な成果のひとつです。

窯のひとつひとつが分かるような詳細図面もちゃんと起こされているのですが、紙面の都合で報告書には掲載できませんでした。

発電所にはダムや取水口があるのですが、全国的に見て興味深いのが水の取り方が非常に細やかだということです。この加茂発電所は、坊主堰堤で取水しているのですが、この小さな川の流れはこちらの大きな流れに合流するので、これを一度こちら側に小さな流域変更してから坊主堰堤で取水しています。これが小河川にある川の中の岩石を利用してつくられた小さな取水堰堤です。



三崎製錬所 配置図 (作図：二宮一平)
(愛媛県の近代化遺産 P90)



加茂発電所 (西条市) 吉野川の岩石を利用した取水堰堤

このような小さなものです (写真参照)。このクレーンは景観的にそぐわないのですが、報告書にはそういう言葉では書いていません。取水堰堤は、自然にあまり負荷をかけず、しかも景観的にはいい形で造られていますが、後に追加されたクレーンが大きすぎるために残念ながら写真写りが悪くなってしまいました。

面河発電所では、四国電力の前身である伊予水電の社長の井上要さんが水路隧道の扁額に「克(よ)く自然を